第3593図

じゅうじばな科

おおなずな

Capsella Bursa-pastoris *Medicus* var. pinnata *Makino*

各地に普通の越年生草本で高さ20–40cm許、全体に薄く粗毛を被る。根生葉は叢生して長柄があり、下方の茎葉は頭大羽裂し、側裂片は長楕円形、又は披針形鋭頭又は稍鋭頭、縁辺に不明粗歯牙縁があり、上方の茎葉は分裂せず茎を抱き、基部鋭箭脚をなす。春時茎頂に短い総状花序を出して多数有梗の白色小花を開き、4萼片、4花弁、4強雄芯、1雌芯がある。花後、花序の中軸は伸長して、その長さ10cm以上となり、扁平、倒3角形、凹頭の短角を結ぶ。これに対して普通のナズナ var. auriculata *Makino* は葉の側裂片は多く線形で葉に耳片がある。この種には変化が多く、短角の狭く、狭倒3角形をなすものも稀に見る。

第3594図

じゅうじばな科

みぎわがらし

Rorippa nikkoensis *Hara*
(=Nasturtium amphibium auct. jap. non *R. Brown*)

本州中部（日光）の高地の湿地に生ずる多年生草本。全株無毛、多数簇生する根生葉中より1茎を立て、葉を互生斜開し、高さ50cm許に達し上方で分枝斜上して夏日痩長な総状花序を出す。根生葉は有柄、羽状深裂葉で、辺縁は鈍刻状鋸歯があり、裂片多数、頂裂片は最大、狭卵形又は長楕円形、茎葉は羽状に中裂し無柄、基部に耳状の附属裂片がある。小梗は細長、斜開し、花は黄色、無苞、萼片は舟形、花弁は狭倒卵円頭、萼片と略々同長、各4個あり、4強雄芯、雌芯1個を具える。子房は楕円形、花柱は短い柱状で直立する。果実は球形、径3mm許あり、宿存する花柱を冠する。和名は水際芥の意。

第3595図

じゅうじばな科

すぐきな

Brassica campestris *L.* subsp. Rapa *Hook. fil. et Anders.* var. Sugukina *Makino*

昔から京都加茂の名産として知られたカブに近い一変種である。根は倒円錐状卵形で、長さ17–20cm、巾8cm許、白色、下方は急に細まって長く尾状に伸び、下半に鬚毛状の側根がある。根生葉は数個直立し、深緑色を呈し、平滑、辺縁鋸歯状の波形を呈し、更にその上に不明波縁がある。春日、高さ70–80cmの円柱状の茎を出して直立し、上方で疎に分枝し、総状花序を出して有梗黄色の十字形花を開くことはカブと同様である。和名は酸茎菜の意で、根を葉と共に塩漬にすると酸味を生ずるのでこの名がある。

第3596図

じゅうじばな科

ひ の な

一名あかな

Brassica campestris *L.* subsp. Rapa *Hook. fil. et Anders.* var. Akana *Makino*
(=B. Rapa *L.* var. Akana *Kitam.*)

京都附近（近江及び山城）で多く栽培されるカブに近い1品で、根は円柱形長さ20cm内外、径2cm許、上半紅紫色、下半白色。根生葉は数個あり、直立し、倒卵状披針形、円頭、基部は長く葉柄に流下し、縁辺は不斉重鋸歯あり、全体平滑、葉柄はやや長く帯紅紫色。茎は円柱形で直立し、上方で疎に分枝し、高さ60cm内外に達し、茎葉は広い葉底をもって茎を抱く。春日、茎頂に総状花序を出して、有梗、黄色の十字形花を開く。4萼片、4花弁、4強雄芯、1雌芯があることは、すべてカブと同じである。和名ヒノナは日野菜で、日野は近江国の地名である。

第3597図

じゅうじばな科

ちょくれいはくさい

Brassica campestris *L.* subsp. Napus *Hook. fil. et Anders.* var. pekinensis *Makino* forma
(=B. Pe-tsai *Bailey* forma)

支那直隷省保定附近に栽培の中心があった白菜の1品種で、現在は本邦における重要野菜の一である。成熟した株においては、根生葉は粗大、浅緑色、狭倒卵形、円頭、縁辺に低い粗歯牙があり、波状に縮れ、下半は狭まり、両側は浅裂し、中肋は広く、白色浅溝数条あり、基部の巾は2–5cm上方は急に細まり、白色で下面に隆起する側脈を左右に繁く出す。中心の葉は固く互に相抱いて白化し、晩秋に結球するが、球の上方はやや開く。全体平滑であるが、幼植物の葉は軟毛多く、緑色の大葉も下面脈上に往々毛がある。春、抽苔して総状花序を出し、黄色十字形花を開くことはアブラナと同様である。

第3598図

じゅうじばな科

ちりめんはくさい

Brassica campestris *L.* subsp. Napus *Hook. fil. et Anders.* var. pekinensis *Makino* forma
(=B. Pe-tsai *Bailey* forma)

南部支那より輸入された白菜の一品種で、本邦の諸処に栽培される。根生葉は大形、緑黄色、倒卵形で、縁辺に不明低鋸歯あり、下半部の縁は特に強く波状を呈する。中肋は巾広く、白色、中央以上は急に狭まって上方及び側方に側脈を多数分岐する。葉面の小網脈の間は上面に凸出して縮緬状の皺をなす。成熟すれば葉心の葉は稍黄化して互に抱くが結球しない。幼植物の葉は有毛であるが、後の葉は無毛である。春日、茎を分岐して、黄色の十字形花を開くことはアブラナと同様。